資料１-１

第２回委員会におけるご意見と対応

※対応（案）の各コメント文末の（　）内は基本構計画素案における記載ページ番号です。

テーマ	ご意見	対応（案）
（１）道の駅あらお（仮称）のターゲット及び提供する価値について		
安全・安心	安全・安心への対応、非接触型の購買ニーズに対応したネット販売のその先などを、意識しておく必要がある。 道の駅は、これまで以上にショールーム的な用途が求められる。スペースの使い方、顧客との接点の持ち方を見直していくべき。	・道の駅あらお（仮称）を取り巻く外部環境として新型コロナの影響を踏まえた需要や消費行動の変化があることを記載（P14） ・上記需要を踏まえた機能として「ネット販売やドローン配送」を記載（P24）
持続可能性	物販・飲食などの主な機能に加えて、さらなる価値づくりが必要。その一つが「持続可能性」だと思う。生産者及び消費者の課題解決につながることが重要。道の駅にフードバンク的な機能を持たせられないか。傷物や廃棄される食材を引き取って、一流シェフが料理するレストランなどを地域で運営し、課題解決と両立させることはできないか。	・目的として SDG s の理念を踏まえた内容を記載（Ｐ１） ・「特別な」については、【荒尾らしさ】や【荒尾ならでは】を意識した特別な体験や健康価値として、機能等へ記載（P24～27）
ポジショニング	ポジショニングの軸で、「特別な」のほうに健康や安心・安全、SDGs、社会貢献の考え方が当てはまるのかと思う。「特別な」が何を意味するのか、もう少し書き込めると、よりよい内容となるのではないか。	
差別化のポイント	差別化の方向性が打ち出せていない。体験型・多様な資源の総合力は魅力的だが、飲食や物販等での差別化が図られていない。差別化のポイントは、後悔がないように議論すべきである。	・飲食については、運営事業者の意向を踏まえつつ、今後更に検討を深めたい。 ・物販においては、梨やマジャク、キノコや乳製品など、季節に応じた品揃えで、「里・山・海」のストーリー性を備えた地産地消を推進(P7)しつつ、「有明アライアンス」による品揃えによって差別化を図りたい（P9,P24,P49）。 ・現状でも観光協会において体験プログラムを提供しているが、立地環境の改善やコンシェルジュ機能の充実によりさらに魅力を高めていくのが狙いである（P26,P49）。
	体験については、観光協会が主体で、施設を整備せずとも可能ではないのか。無理に道の駅を整備する必要があるとは思えない。	
夕陽	有明海の夕陽というロケーションが素晴らしい差別化のポイントと思っている。 道の駅が整備される場所からは堤防しか見えない。区画整理前の議論の中で、盛土は予算面で困難と聞いている。）	・夕陽の眺望は確実に魅力の一つでるため、道の駅から有明海と夕陽が見えるよう２階建ての構造とし、２階部分の屋上を夕陽の眺望スポットとして活用することを検討（P38～P39）。

テーマ	ご意見	対応（案）
採算性	「まるごとあらお」の事例を踏まえ、採算性が担保されるような施設にする必要がある。	・収支シミュレーションを参照。示した数値を最低限確保ができ、プラスαの可能性が見込まれる事業者を選定していくことが重要と考えている（P45）。
継続性	体験コンテンツは、お金をかけて体験・学びの場を整備して、無料で貸し出しても、継続できないのが現状である。そういう実状を調べた上で検討してほしい。	・体験プログラムの在り方については、価格設定や運営主体などを含め、現在計画中の次期観光振興計画において引き続き検討していく。
子育て施設との連携	子育て施設と一緒に２０～３０代をターゲットにするのであれば、広場は公園と一体的なものとすべきである。道路で分断されていたら一体的な運用ができない。	・南新地全体をウェルネス、機能連携の観点から、様々な機能を周遊してもらうことを想定しており、連携する地区同士の動線等を工夫することによって長時間の滞在を促したい。
お土産・加工品	加工品がヒットするのは本当に難しいことであり、急に作ってできるものではない。過去に作ったものをもう１度見直すのが現実的である。特産品開発に一から取り組んでいては、道の駅の開業には間に合わない。 出荷意向の数値は、道の駅として成り立たないことを意味している。それ以外の商品を作れなければ成り立たない。この短期間のスケジュールで進めるのであれば、将来的な責任についてよく受け止めておいてもらいたい。	・特産品開発事業について進めており、来年度以降も継続予定であるため、道の駅開業までには売れる商品を開発したい。過去に作ったものを見直すことも含めて検討していくこととしている。 ・運営者を選定する際には、商品開発を行えることを要件とすることも検討する。
運営主体	まず誰が運営するのかを決めなければ進まない。指定管理者なり、運営できる人を見つけるのが先ではないか。	・民間活力を最大限に発揮できる方法を検討する。その一例として、PFI 手法についても検討をしたい。（PFI：民間の資金、経営能力、ノウハウを活用し、設計・建設・運営を行う手法） ・現在、サウンディング調査を実施中であり、次年度以降、よりよい運営者を選定したい。
（２）道の駅あらお（仮称）の導入機能及び機能ごとの特色について		
事業者の視点	市民や来訪者をイメージして導入機能を検討していると思うが、事業者の視点での機能を付け加えると、提供価値も広がる。	・方向性 2 に運営者と生産者を交えたプロデュース機能の内容を記載(P18) ・目的(P1)、魅力づくりの方向性 2 及び 3（P18）、提供する価値の具体的なイメージ（P22）、導入機能及び施設テーマにおける交流施設（P26）にコミュニティ価値の内容を記載

テーマ	ご意見	対応（案）
コミュニティ・国際化・プロデュース機能	コミュニティ価値をどう最大化させるのかという視点もある。地域共同体づくりのような観点で、もう少し付加できる機能があると思う。 コロナ禍でインバウンドは止まっているが、国際化の考え方が今後は必須である。国際化に関連する新しいコミュニティづくりなどの観点を入れていくと、これまでのウェルネス拠点の議論をさらに昇華させることができると思う。 事業者の方々と一緒に商品をつくりあげ、生産者を巻き込んで競争価値を生むような、プロデュース機能といえる。道の駅として、ハードではなくその裏に隠れているものなども大切である。	・戦略③として「あらゆる世代が活躍する舞台としての地域センターづくり・居場所づくり」の項目を追加（P17） ・インバウンドについては、現在計画中の次期観光振興計画において引き続き検討していくが、当面はすでに需要のある中台韓の客を対象としたアドベンチャーツーリズムやゴルフツーリズムに力を入れていく方針であるため、道の駅においてもそれを見込んで整備していく。